

地域での生活を支え病院との架け橋になる がん相談支援センター

2014/05/15 こうち地域チームケア研究会
彦根市立病院 がん相談支援センター次長
緩和ケア認定看護師

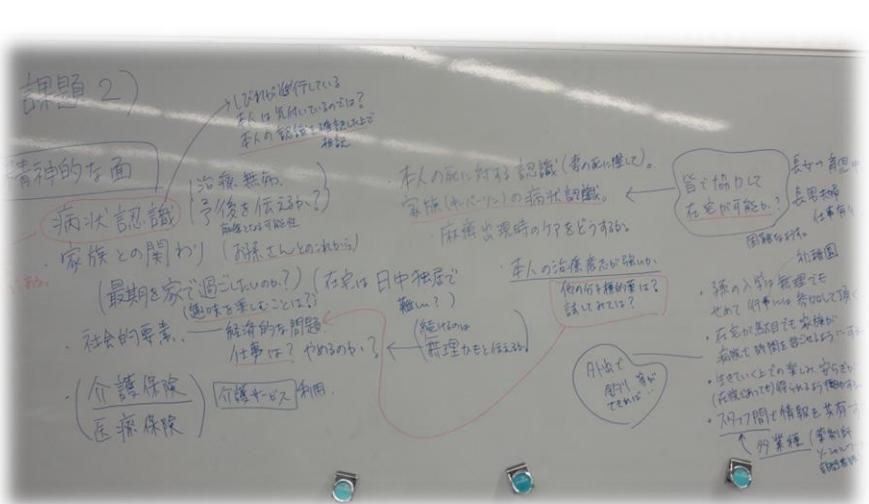
秋宗美紀

がん相談支援センターの業務

- ＊ がん相談支援センターの広報
- ＊ がん相談に関すること
- ＊ がんに関する研修会・フォーラムの開催
- ＊ 患者サロンの協力

緩和ケア研修会

この研修を修了すれば
“がん患者指導料”が
算定可能となる



がん医療者研修会



市民公開講座



がん患者さんや家族が抱える苦悩

病気のことが
とにかく不安

セカンド・オピニオン
緩和ケアって
何のこと？

医療費や
生活費が心配

どんな治療や
検査があるの？

気持ちが
沈む

痛みや苦しみは
取れるものの
なの？



相談事例①

60歳代 女性 大腸がん

＜相談者＞ 近くに住む長男

＜内容＞ ➤ 主治医との関係性
➤ 母親にどのように接すればよいか

週3回 がん相談支援センターに来室
相談+自身の感情を出す場所として利用していた

- 診療科部長と相談し、主治医を変更して不安を軽減
- 長男の存在意義を肯定し、がん患者の心理過程を伝えながら、母親との接し方を助言
- 在宅療養中の注意点や社会資源について説明
- 喪失の悲しみに共感し、家族としてできることを助言

問題解決のお手伝い



援助する側だって迷い・悩みます！

他施設の医療従事者



地域の医療従事者



- ◆ 患者さんの症状マネジメント（アセスメント）
最近、痛みが強くなってきた
呼吸困難を訴えるが、その原因は？
排便コントロールがうまくいかない
- ◆ 緩和ケア科受診のタイミング・方法について
- ◆ 家族のケアについて
- ◆ 在宅療養をどこまで続けるか・・・
- ◆ 意思決定支援について



在宅患者訪問看護・指導料

鎮痛療法または化学療法を行っている入院中以外の緩和ケアニーズを持つ悪性腫瘍患者について、医療機関等の専門性の高い看護師と訪問看護ステーションの看護師が同一日に訪問



1,285点

相談事例②

80歳代 女性 肺がん

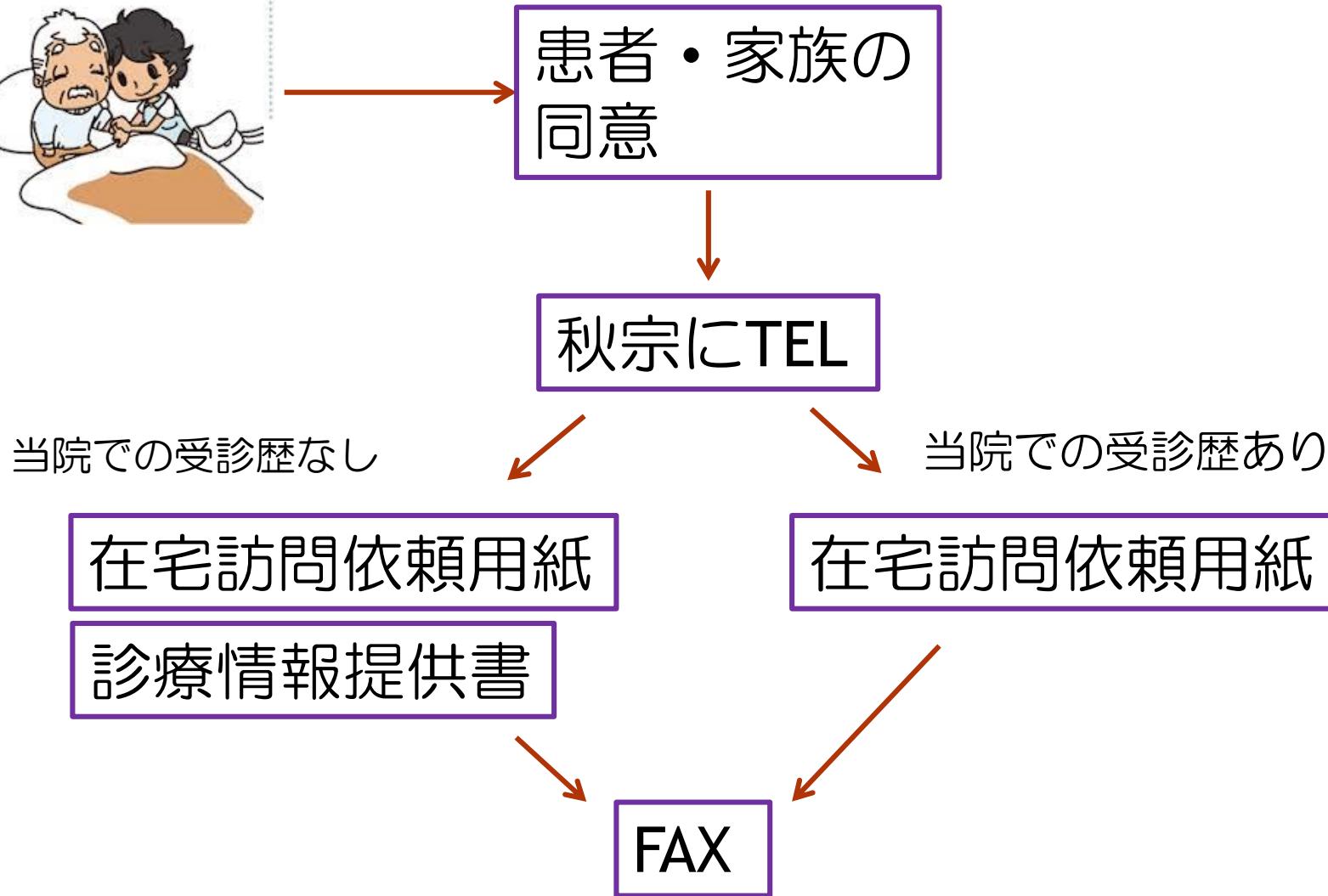
＜相談者＞ 訪問看護師

＜内容＞ 家族は自宅での看取りを希望しているが、本人の苦痛緩和に難渋している

- 呼吸困難感が顕著⇒ステロイドを内服から注射へ
医療用麻薬の導入
- 倦怠感も増強した⇒座薬を使った浅い鎮静を開始

在宅でも可能な方法を考え、希望する場所での看取りをサポート

訪問依頼のフローチャート



みなさんに質問です

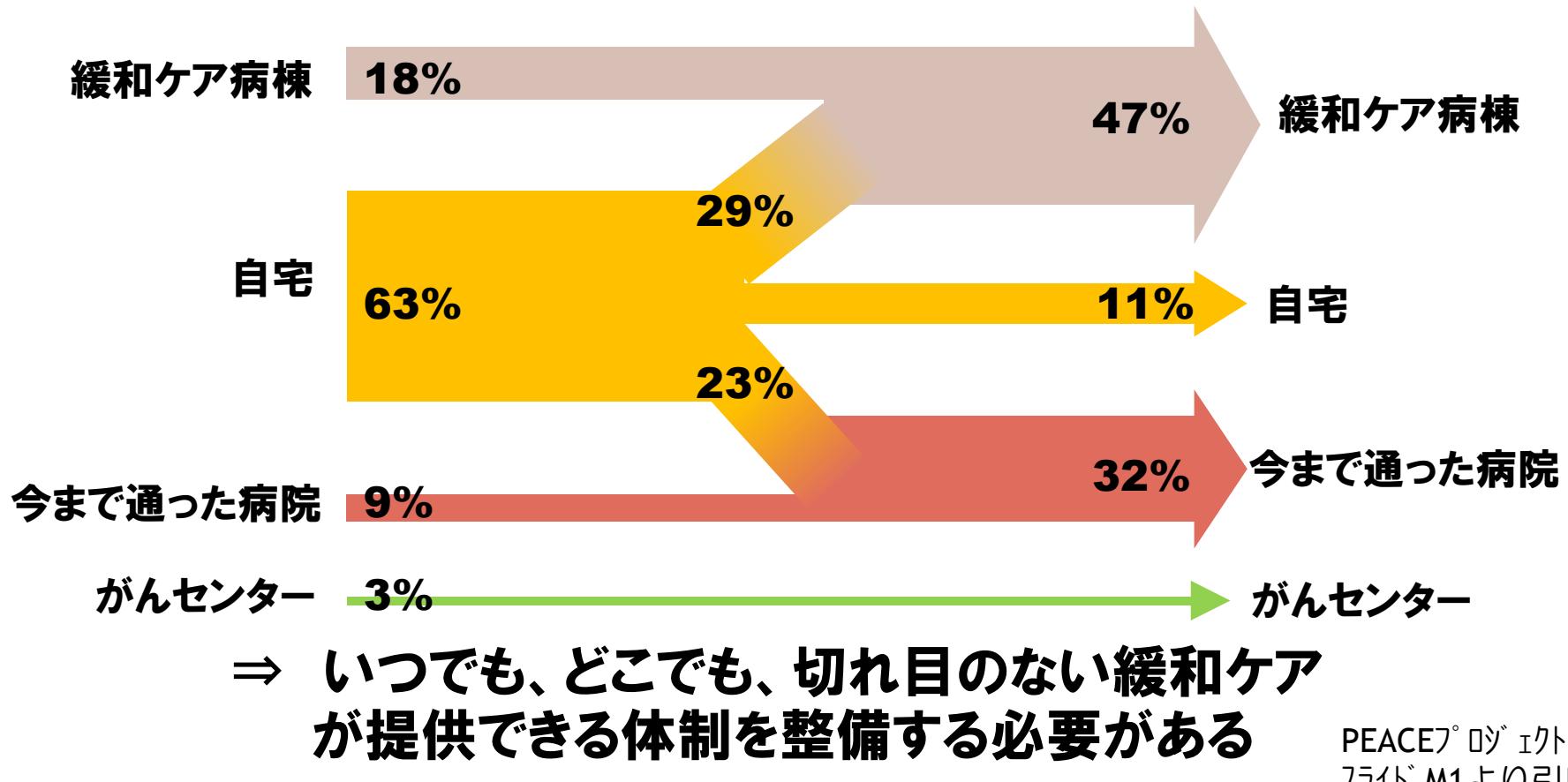
あなたが、治る見込みがなく（余命半年以内）と告げられた場合

1. あなたはどこで療養したいですか
 2. 最後をどこで迎えたいですか
-
- | | |
|-------------|----------|
| a 緩和ケア病棟 | b 自宅 |
| c これまで通った病院 | d がんセンター |

希望する療養場所は変化する

死期が迫っている(余命が半年以下)と告げられた場合一般集団2,527人(2008年)
<http://www.mhlw.go.jp/stf/seisaku/seisaku-000012712e.pdf>

<療養生活は最期までどこで送りたいですか>



どこで過ごすかを決めるのは患者です

住み慣れた家が
良い

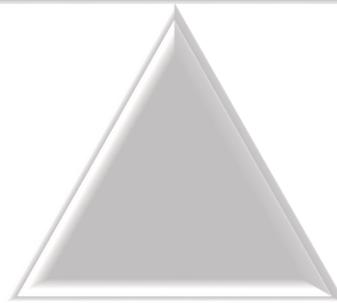
家族と一緒に過
ごしたい

迷惑をかけたくない

具合が悪い時は
対処が可能

家にいると迷惑
をかける

規則がある



患者が希望する場所、療養にふさわしい場所の選択を手伝う

“その時” になって慌てないために

緩和ケアに関する相談

- 緩和ケアは何をしてくれるところ？
- 緩和ケアの外来で診てもらうには？
- 緩和ケア病棟について教えて欲しい
- 緩和ケア病棟に入院したいのですが...

当院には

緩和ケア外来

緩和ケア病棟

緩和ケアチーム

患者の状態に応じて必要な部門が
かかわり連携をはかる

緩和ケア外来受診フローチャート



当院の受診歴なし
他院に通院

当院受診歴あり
現在は往診のみ

当院の診療科に通院中

診療情報提供書を
地域連携へFAX

秋宗に電話連絡

外来日に主治医から緩和ケア科へ
コンサルテーション

緩和ケア外来予約

同日に緩和ケア外来受診

予約日に来院

必要に応じて緩和ケア病棟へ
入院

診療情報提供書を
地域連携へFAX

秋宗に電話連絡

外来日に主治医から緩和ケア科へ
コンサルテーション

緩和ケア外来予約

同日に緩和ケア外来受診

予約日に来院

必要に応じて緩和ケア病棟へ
入院

がん相談支援センターのコンセプト

あなたの心
を
ささえます

あなたに合
う情報を
提供します

あなたと
一緒に探し
ます

あなたの
生活を
支えます

あなたの
家族
も支えます

自己決定を
支援します

グループワーク（意見交換）の時間です

《検討テーマ》

- ①地域でがん患者さんの医療・ケアを実践するにあたり、困った出来事はどんなことがありましたか
- ②地域と病院の連携に際して、どのような要望がありますか

*発表について

2分以内で発表できるよう、意見をまとめてください
前出のグループと同意見のものは省略してください

1G

- ・慣れている方はスムーズに情報が行くが、いきなり来られると、上手く対応できない
- ・退院されるタイミングを調整するのが大変(訪問看護)

3G

- 訪問看護、医療相談が関わる中で、医療保険3割になる方に対する格差あり
- 患者さんも医療費を気にされる方が多い
- 体制つくりが難しい

5G

- 在宅でケアマネさんが多いグループ。いろんな事例が話せた。
- がんが進行してきたことに
- 家族さんが安心できる、ケアマネがいるということで。

7G

- 緩和ケアと在宅の連携関係について
- 病棟で過ごす中でどうやって在宅に戻るのか、大事なテーマだと思う
- 当圏域では、多職種が連携しているが、緩和ケアからの退院についてはまだ見えないところがある
- 疼痛管理について、せんもうについて、在宅に帰ることで軽減することもあることを実感する

2G

- 事例によるが、在宅での支援の場合、訪問看護の有用性が高い。家族の安心にもつながる。
- 家族が主治医に訪問看護導入を相談したが、「悪化時は入院してもらうので不要」といわれたことがあった、、、そのような際に相談支援センターを利用できればと思う。
- 在宅療養について、地域の開業医に緩和ケア研修をつけてもらうような働きかけを。

4G

- 本人の告知について、支援者間の意向が整理できず悩んだ事例について。
- 自宅では生活がある、そこに医療が介入することの難しさ。
- 関係職種が家族の気持ちを以下に共有するかが大切。

6G

- 要望
- レスパイト等、後方支援を病院に頼みたい。
- 抗ガン剤は高額であり、取り寄せも必要、必要な方がいる場合は退院前に情報をもらいたい。
- 退院前に在宅のイメージをもつことが大切。